

「医療業界の現状と今後について」

～臨床検査技師に求められる役割と成長の方向性～

About the current state of the medical industry and future.



立石 隆

株式会社 HR シンフォニー / 医療法人エム・エム会 マッターホルンリハビリテーション病院

<あらまし>

(株)HR シンフォニー※ の代表取締役ならびに(医)エム・エム会 ※※の事務長を務めている小生は、看護大学での講義や執筆、またコメディカル職向けの講演から日本国内における遺伝子検査の普及展開活動まで幅広い業務を担当している。その活動において知り得た情報をもとに、これからの医療業界がどのような方向に進もうとしているのか、そして医師を含めたそれぞれの医療職種に求められていくことについて拙論ながら意見を述べさせていただきたい。

※ <http://www.hr-symphony.co.jp/>

※※ <http://www.matterhorn-hospital.jp/>

我が国の医療政策は大きな転換点を迎えている。医療費と介護費の総額は日本の歳入(54.5兆円/平成27年度)に迫る勢いであり、これからの高齢者率の増加と総人口の減少を踏まえると今以上の増加ペースを維持することは到底不可能である。つまりは「医療費の削減」をどのように進めていくかが今後の我が国における医療政策の基本となっていくと考えられる。

その中で繰り出される施策として、病床数の削減や予防医学の推進などが取り沙汰されるものの、これらだけで財務省が期待する削減効果を満たすことは難しいであろう。そうなった際の「次の施策」について、我々医療人は意識をしておく必要がある。それは「医療従事者自体の削減」という方向性である。

この動きが本格化するのには医療版マイナンバーが導入される2020年以降であろう。その時代が訪れるまでの間に、それぞれの医療職種では「今後の生き残り施策」について真剣に議論し、準備を進めていくことが求められる。

病院における検査技師の仕事は一般的に職員の定着率が非常に高く、職員が定着しないために医療安全の問題などが起こってしまう看護師とは異なると言われている。しかし一方では組織異動が少ないため、人間関係が固定化してしまい改善や改革が行われにくい風

土が生まれやすいという問題を抱えやすいとも言われており、今後は『職種の枠を超えて病院内で活躍できるような能力開発(教育)の方向性』についても臨床衛生検査技師会において議論をされていくべきだと考えている。

事務長職を10年近く担当している立場からも交え、今後の臨床検査技師に求められる役割などについてご提言申し上げたい。

<講師略歴>

株式会社HRシンフォニー 代表取締役社長 立石 隆

1975年(昭和50年)5月23日生まれ(41歳)

大学法学部を卒業後、国内大手経営コンサルティング会社に入社。

社内人事部にて採用や教育の実務担当を経て人事系コンサルティングに6年間従事する。その後、医療法人(総合病院)に転職し、HRM系人事セクションの責任者として新卒看護師の採用や院内の管理者研修などの講師を担当。また本部長代行として名古屋駅前の健診センターの立ち上げなどにも関わる。

2008年2月に独立し、(株)HRシンフォニーを設立。現在に至る。